



国労仙台

No. 2580
2010年4月10日
発行責任者 橋本 昭二
編集責任者 武田 昌仙

3	3	3	2	2
6	6	5	2	26
24				
団交(ダイヤ改正整理)				
団交(申3・5号)				
簡易苦情処理事前審理				
国労東北総決起集会				
国労仙台総行動				
婦人部常任委員会				

3	3	3	3	3
15	12	11	9	8
第5回執行委員会				
全国代表者会議				
団交(申7号)				
国労青・婦・家総行動				
団交(申8号)				
貨物総行動				

4	3	3	3	3
4	29	24	23	22
3				
団交(申9号)				
仙台工作協議会定期委員会				
団交(申10号)				
仙台運協営業・車掌分科会				
貨物ベア・ゼロ抗議集会				
安プロ・業務部長会議				

ベア・ゼロ、定昇先送りに抗議

11年連続、我慢も限界!



地方本部は3月29日、10春闘の貨物会社回答の「11年連続ベア・ゼロ」「定期昇給実施の先送り」に抗議し再回答を求める宮城県集会を開催した(福島県郡山工場支部と郡山分連協において同日開催)。

当日は宮城県支部主催の集会も予定されており、集会を国労会館で開催した。

集会には宮城県支部、仙総所支部、東北自動車支部の組合員約百名が参加した。

集会は地本中島副委員長の挨拶で開会、主催者を代表して橋本委員長は、以下の挨拶を述べた。

本部努力に理解を

貨物会社は2月22日の第1回目の交渉で、「定期昇給はない」「年間の期末手当を3ヶ月とする」と宣言。我々は3月5日の東北総決起集会で、要求前進のため、東北3地本として東北協議会が本部にストライキを上申する意思統一を図ってきた。

貨物回答結果は大変不満。また賃金規程、就業規則に抵触の疑問も。東北協議会として貨物本社長宛に要請書を提出している。この状況を招いた背景には、貨物を黒字決算にしろという国交省の強い要請があり、人件費に切り込

た結果、半年遅れであるが、定期昇給を実現した。内容に不満が残ると思うが、ここまで踏ん張ったということとを現場の組合員1人ひとりに伝えてもらいたい」ということである。

一方、JR東日本は当初予定から10日遅れて本日回答。回答はベア・ゼロ、定期

長がこの間の国労本部と貨物本社における、4回の交渉経過について報告をした【別掲】。

更には、決意表明として、宮城県支部秋山委員長、仙総支部庄司委員長がそれぞれ連帯と激励の挨拶と、闘う決意を述べた。

最後に貨物宮城分会阿部

岩井議長経過報告

本部が2月10日に賃金改訂の申し入れ。2月22日の第1回交渉の席上、年間の期末手当3ヶ月と会社側が通告。先程の東日本の夏季手当に0.3ヶ月しか違わない内容。また定期昇給は盛り込まない計画を今後議論していくと一方的な提示。3月3日の第2回の交渉の中では事業計画を示し、人件費について年間賞与で15億、給与・人減らし等で16億、出向負担金の稼いで3億、計34億円の経費削減計画を明らかにした。

この回答内容では、4月から10月までの6ヶ月間について、今年の新採と昨年入った社員の賃金が逆転する状況が生まれる。想定外であり、見返り等も今後求めていく。会社側は生涯賃金についての考え方は持つており、今後課題になる。結果、22年度の取扱いとして、4月から10月までの間の賃金についての交渉を行うことになったのは、国労として最初からストライキを背景とした交渉が取り組めない弱さが出た。ベア交渉よりも定期昇給確保に向かわざるを得なかった点については、大いに反省しなければ。また貨物会社は「第2の日航になりたくないでしょう」という話を持ち出し、社員を締め付け、会社の黒字だけをどう捻出するかを考えており、組合として怒りを持ち取組む。



3月13日の第3回交渉から、国労は定期昇給に絞った交渉に。賃金規程の4号の条文的解釈論を示したが、会社は就業規則に無いものは改めて協議し、労働契約法の解釈と疑義については今後見解を示すとした。

これまでの経過では、第3回の交渉で打ち切りであった。

強調。組合側は、規程の解釈、賃金規程上、定期昇給を実施しないのは誤りと指摘し、NS2011計画の破綻、失敗を社員に回すことは許されないと追及。しかし、会社は主張は受け止めるとし、第4回の交渉も物別れで終了。

その後、回答予定日の3月19日に、「回答できず」

是非ストの配置を

2月に分会執行委員会、全体集会を開催、その中で定昇ゼロ、年間のボーナス3ヶ月という話があり、「生活はどうなるのか」という気持であった。

今交渉での「会社が作った就業規則を会社自らが破る」ということを許してよいものか。国交省からの締め付けがあると伝え聞くが「分割・民営化」以降20数年経っても貨物は完全民営化されていない。この責任は誰が取るのか？全て貨物の労働者だけか？政府、国交省の連中は？そこを明確にしてもらいたい。

3月5日の東北総行動の後の交流会で、我々の仲間

春闘川柳上位入選作品

- 第一位 五十代 やる気はあるが 目が霞む 中年の星
- 第二位 外注化 教えた人が 次見習い 現場監督
- 同 蓮方さん ウチの管理者 仕分けして ガセコンプライアンス
- 第四位 うそだらう リーディングカンパニー 水泥石
- 第五位 年老いて 仕事は増えど 二割減！ 詠み人知らず
- 第六位 コンプラと 掛け声だけは 超一流 観自在菩薩
- 第七位 暖冬が 上司セコクで 厳冬だ 一割カット
- 第八位 新採に 技術継承 評価ゼロ 国労組合員
- 第九位 いいのがい？ その仕事まで 外注化？ まるわ
- 第十位 エルダの 確保目的 うそっぱち 検修合理化反対
- 同 川柳の 餌食にしたい この上司 恨みつらみ

仙台市民に春闘をアピール

国労東北協議会と国労仙台地本は10年春闘勝利に向けた取り組みの一環として、仙台市内において大衆行動を展開。

3月5日には国労東北総決起集会（国労せんだい速報版2577号参照）を開催、翌6日には国労仙台総行動を開催した。

生憎の雨天でも 三百名が結集！

6日の総行動は仙台市勾当台公園において十三時半から開会。参加した組合員三百名を前に、挨拶に立つた橋本委員長は「空前の経済不況の中、企業は労働者の首切りで凌ぎ切ろうとし、我々労働者の生活はどん底に喘ぎ、衣食住の生活基本権すら奪われている。労働運動が停滞している中で、少しでも市民にアピールし、運動と連帯の輪を広げよう」と訴えた。また集会へは政党・友誼団体・国労議員団など多くの方々に駆けつけ

退職のお知らせ

2月28日
大倉 満さん
自動車支部福島県
金 正さん
仙台駅連合

て頂いたとき、連帯と激励の挨拶を受けた。

い決意が述べられた。更には、地方大会以降の組織拡大の報告と紹介として、東北自動車支部の岩崎宏さん本人から決意が述べられ、安保書記長より拡大に至る経過報告と決意表明を受けた。

ご協力に心から感謝いたします！
国労青年・婦人・家族
中央総行動へのカンパ
23,316円を集約

決意表明
続いて各支部等からの決意表明として、仙台闘争団佐藤事務局長、貨物協議会大越事務局長、東北自動車支部北山副委員長、山形県支部堀内副委員長、郡工支部大川原副委員長、福島県支部小檜山委員長、仙総支部庄司委員長、宮城県支部山田書記長からそれぞれ力強い

集会集約とデモ
集会の最後に地本五十嵐書記長は「連日の集会にも関わらず、多くの組合員が結集し、昨日の集会には東

北三地本で四百名超（仙台地本三百名）、本日も三百名と両日合わせて延べ人数で地本組織の六割の動員を勝ち取った。両日の行動力と団結を職場においても実践し、諸要求の獲得と諸課題の解決に向けて奮闘する事をお願いしたい」と集約。



最後に橋本委員長の団結頑張ろうで集会を締めました。参加者一同は隊列を組み、仙台駅前までのデモ行進に出発。シュプレヒコールで市民へのアピールを行った。

激励ありがとうございました！
国労議員団
石川けんじ仙台市議
共産党宮城県委員会
嵯峨サダ子仙台市議
平和労組会議
石森副議長
宮城県労連
鎌内事務局長
建交労宮城地本
森 利春書記長
仙台市議会
大槻 正俊議員